

天然林 — 里山・奥山 —

さと やま おく やま

山形県の森林のうち、約7割が天然林です。天然林は、樹木の種が自然に芽生え、育つ森林のことです。人工林との違いは、切ったあと、人が植えなくとも自然に木が生え、もとに戻るところです。



里山

ミズナラ・コナラを
主体とする森林



奥山

ブナを主体とする森林



天然林は古くから人の生活になくならない森林でした。なぜなら、石油やガスなどの化石燃料を利用するより以前は、この森林から採ってきた木材をまきや炭などの燃料として利用したからです。その他にも、きのこ生産のための「ほだ木」や、肥料として落ち葉などを利用して生活してきました。

人里に近い森林は、生活と強く結びついた山という意味で「里山」とよばれています。「里」から遠い山奥の森林は「奥山」とよばれています。

・知ってる？「あがりこ」

ブナやナラなどの木を切ると、その切り株から新しい芽が出て新たな幹になります。雪国では積もった雪の上で切ることがあり、高い切り株が残ります。このため、写真のようなおもしろい形となり、これが「あがりこ」とよばれています。



ブナのあがりこ (大蔵村)



炭の窯出し作業



黒炭



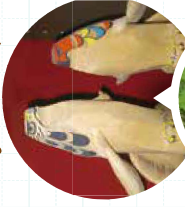
白炭

炭の違いについて調べてみよう！

炭には「黒炭」と「白炭」があります。
違いは何なのか調べてみましょう。

山形県には、さまざまな広葉樹種の個性をいかし、優れた伝統工芸品がたくさんあります。

おたかぼっぼ



将棋の駒



けん玉



おりな織



ゴシアブラ



ホオノキ



サクラ



シナノキ



みなさんの地域にある伝統工芸品をみつけよう！

伝統工芸品の名前：

使っている木の種類：